

《接種上の注意》

～予防接種を受ける方、並びにご家族の方へ～
この通知書をよく読んで、必要性や副反応について理解したうえで、接種を受けてください。

1. 季節性インフルエンザ予防接種の効果・目的

インフルエンザは、ウイルスに感染することにより発症し、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、咳、鼻水などの症状が見られます。普通の風邪に比べて全身症状が強く、また気管支炎や肺炎などの重い合併症を起こすこともあります。

インフルエンザワクチン予防接種は、感染後に発症する可能性を低減させる効果と発症した場合の重症化防止に有効であることが明らかになっており、ワクチンの効果は接種後2週間～4ヵ月程度と考えられています。

また、インフルエンザワクチンは、そのシーズンに流行が予測されるウイルスに合わせて製造されていますので、毎年インフルエンザ予防接種を受けた方が良いでしょう。予防接種は1シーズン1回の接種となります。

2. 接種前及び接種後の注意事項

- (1) 接種数日前から体調等に留意し、体温など普段と変わったところがある場合は、接種当日、担当の医師に相談し接種の可否を判断してもらってください。
- (2) **予診票（青色の用紙）は、健康状態について接種者自身が責任をもって、あらかじめ自宅で記入してきてください。なお、記入の際はボールペンを使用してください。2枚複写の予診票は取り外さないでください。**
- (3) 接種前後は、激しい運動・飲酒は避けてください。
- (4) 接種の際は、**予診票、接種料金、保険証、お薬手帳**を必ず医療機関に持参してください。

3. 予防接種を受けられない人

- (1) 接種当日の体温が37.5℃以上ある人。
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- (3) インフルエンザ予防接種液に含まれる成分によってアレルギー症状を呈したことがあることが明らかな人。
- (4) その他予防接種を行うことが不適当な状態の人。

4. 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなければならない人

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液疾患、その他慢性の病気で治療を受けている人。
- (2) 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹等のアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (3) 今までにけいれんを起こしたことがある人。
- (4) 今までに免疫不全の診断がされている人、及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (5) インフルエンザ予防接種ワクチンの成分、または鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して、アレルギーがあるとされたことがある人。

5. 接種後の注意

- (1) インフルエンザワクチンの副反応について

インフルエンザ予防接種で比較的多くみられる副反応には、接種した部位の発赤、痒み、腫れ、痛み等があり、このほか、発熱や頭痛、寒気、倦怠感などの全身症状も見られることがありますが通常2～3日で消失します。ごくまれにアレルギー反応としてけいれんや運動障害、意識消失等のショック症状やアナフィラキシー症状（じんましん、掻痒感、呼吸困難等）が見られることもあります。**接種後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、医師（医療機関）とすぐ連絡が取れるようにしておいてください。**副反応の多くは、接種後24時間以内に出現するので、特にこの時間は体調に十分注意してください。

接種後異常な兆候があった場合には、できるだけ早く**接種を受けた医療機関で診察を受けてください。**

- (2) 接種した日の入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすることはやめましょう。
- (3) 接種した日はいつも通りの生活をして差し支えありませんが、激しい運動や飲酒は控えましょう。

6. 予防接種後健康被害救済制度

この予防接種は、予防接種法による定期予防接種です。万が一予防接種を受けたあとに健康被害が発生し厚生労働大臣が認定した場合には、救済給付を行う制度がありますので、下記にご相談ください。

◎お問い合わせ：軽米町健康福祉課健康づくり担当（健康ふれあいセンター内 電話 46-4111）